

～認知症になっても安心長寿のまちおうしゅう～（奥州市）

- 認知症に関わる関係者(24団体)により「認知症になっても安心まちづくり連絡会」を設置し、課題解決に向けた部会による活動を展開
- 3つの部会の活動とともに、認知症の人や家族を支える活動により、認知症を切り口とした地域包括ケア体制の構築とまちづくりをめざす

(市町村認知症施策総合推進事業)

1 医療・介護・地域支援サービスの連携を図る事業

(1) 認知症になっても安心まちづくり連絡会

(医師会、歯科医師会、薬剤師会、介護施設関係者、家族の会、ケアマネ代表、弁護士、消防・警察・県・市等)

○ 課題解決へ向けた各部会による活動

「徘徊対応」、「金銭管理・権利擁護」、「普及啓発相談」

(2) みんなで支える認知症事例検討会

地域ケア会議メンバーに認知症サポート医及び関係者が参加

地域課題の共有、課題解決へ向けた取組

→ 地域のケアマネジメント力の向上及び関係者のネットワーク構築へ

2 認知症の人や家族を支援する事業

(1) 認知症の人を支える介護者支援事業

○ 認知症支援ぬくもり隊養成講座

○ 家族交流ほっとスペース

(2) キャラバン・メイト活動支援と認知症サポーター養成事業

○ キャラバン・メイト自主活動組織育成支援など

「奥州市キャラバン・メイト連絡会スマイル²」(H24年5月設立)

(3) 認知症の人と家族支援のための研修会

○ 認知症にやさしい地域づくりフォーラム

○ 認知症にやさしいケアのあり方研修会

(4) 認知症の人と家族の実態調査

認知症を切り口とした地域包括ケア体制の構築とまちづくり



みんなで支える認知症事例検討会



認知症支援ぬくもり隊養成講座

地域包括ケアシステム構築に向けた取組事例（様式）

①市区町村名	奥州市
②人口（※1）	124,074人（平成25年3月末現在）
③高齢化率（※1） （65歳以上、75歳以上それぞれについて記載）	65歳以上 36,757人、75歳以上 20,975人 （高齢化率 65歳以上 29.7%、75歳以上 16.9%）
① 取組の概要	<p>住み慣れたまちで共に生きるために ～認知症になっても安心長寿のまちおうしゅう～</p> <p>○認知症に関わる関係者（24団体）により「認知症になっても安心まちづくり連絡会」を設置し、課題解決に向けた部会による活動を展開</p> <p>○部会の活動とともに、認知症の人や家族を支える活動により、認知症を切り口とした地域包括ケア体制の構築とまちづくりをめざしている</p>
⑤取組の特徴	<p>認知症に関わる関係者（団体）により、「認知症になっても安心まちづくり連絡会」を設置し、官民協働の認知症高齢者支援ネットワーク構築をめざしている。連絡会に課題解決に向けた複数の部会をおき、認知症の人や家族を支える活動を住民とともに考え推進している。</p>
⑥開始年度	平成24年度
⑦取組のこれまでの経緯	<p>当市は平成18年2月に2市2町1村が合併し奥州市となった。これまでの認知症高齢者対策の取り組みは下記のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合相談 ・要支援1・2及び困難ケース支援 ・認知症サポーター養成講座開催及びキャラバンメイト支援 ・高齢者虐待防止への取り組み ・認知症関連会議・講座等での啓発活動 ・認知症の人と家族の会支援 ・介護予防教室 ・二段階方式を活用した、脳元気グループ育成支援（脳元気グループ交流会・脳いきいき相談） ・「呆けない老後をめざす会」等の地域づくり <p>しかし、認知症に関する切実な相談が多くなり、認知症サポーター養成講座やフォーラム、家族教室等、認知症関連事業に対する住民の反応が大きことや、若年性認知症者のほとんどが匿名の相談であったことから、「認知症で困っている市民が多く対応を急がなければならない」という確信をもった。合併前の各自治体での取り組みが検証されていないため、平成24年度市町村認知症施策総合推進事業を活用し、市全体の事業として取り組むこととした。</p> <p>※介護保険認定者数 6,123人 ※認知症自立生活自立度Ⅱ以上 4,044人（認定者数の66.0%）</p>

<p>⑧主な利用者と人数</p>	<p>みんなで支える認知症事例検討会 7事例検討 154名参加 認知症支援ぬくもり隊養成講座 36名修了 家族交流会「ほっとスペース」の開催 のべ42名参加 平成24年度認知症サポーター養成講座 30会場 1,187人 認知症にやさしい地域づくりフォーラム 350名参加 認知症にやさしいケアのあり方研修会の開催 81名参加 認知症の人と家族の実態調査 実態調査実施者数(本人251人・介護者260人)</p>
<p>⑨取組の実施主体及び関連する団体・組織</p>	<p>実施主体：奥州市 関連する団体・組織： 医師会・歯科医師会・薬剤師会・介護施設関係者・家族の会 ケアマネジャー代表・社会福祉協議会・金融機関・理容師組合 タクシー協会・弁護士・消防・警察・岩手県・市役所関係課等)</p>
<p>⑩市区町村の関与(支援等)(※2)</p>	
<p>⑪国・都道府県の関与(支援等)(※3)</p>	<p>平成24年度市町村認知症施策総合推進事業 3,081千円</p>
<p>⑫取組の課題</p>	<p>1) 認知症サポート医をはじめ、医師会との情報交流が増え、医療と介護の更なる連携強化が必要 2) 市民ボランティア育成とアクションプランによる活動支援 3) 認知症予防事業と一体となった取り組み</p>
<p>⑬今後の取組予定</p>	<p>～認知症を切り口とした地域包括ケア体制の構築とまちづくり～ 本人と家族の実態調査の分析をもとに、地域課題を把握し地域包括ケア体制の構築に発展させていきたい。基本方針は下記のとおり。 ・「困っている」からはじめられる ・認知症の人が暮らしやすいまちは誰もが暮らしやすいまち ・住み慣れた地域で自分らしく過ごし、希望するかたちで人生を終えられるようにしたい 市民が認知症の正しい知識をもち、だれもが社会的に排除されず、社会参加できるまちをめざしたい。</p>
<p>⑭その他</p>	<p>第5期高齢者福祉計画・介護保険事業計画(平成24年～26年) <主な施策の方向性> ■ 認知症に対する正しい知識と普及啓発 ■ 認知症予防事業の充実 ■ 相談体制の充実 ■ 家族支援体制の強化 地域支え合い活動の支援</p>
<p>⑮担当部署及び連</p>	<p>岩手県奥州市健康福祉部長寿社会課(奥州市地域包括支援センター)</p>

絡先	電話 0197-24-2111 (内 268)
----	-------------------------

- ※1 一部地域に限定した実施の場合は、当該地域の人口・高齢化率を()内に記載してください。
- ※2 市町村から財政的支援が行われている場合には予算額等を含めて記載ください。
- ※3 国や都道府県から財政的支援を受けている場合は、補助金や交付金等の名称、額等を含めて記載ください。

認知症の本人と家族を
地域で支える体制を築いていくために

平成24年度認知症地域資源連携検討事業

認知症地域支援体制普及セミナー
盛岡会場(3月8日)
報告資料

平成25年3月8日

地域普及セミナー（盛岡市）プログラム

3月8日（金）

時 間	内 容	ページ
13:00～13:10	○あいさつ 認知症介護研究・研修東京センター 本間 昭 センター長 ○本日のオリエンテーション	
13:10～14:10	1. 岩手県内からの報告 1) 奥州市 ○及川 明美 さん 奥州市健康福祉部長寿社会課（水沢地域包括支援センター） ○菊地 正宏 さん 奥州市水沢区佐倉屋敷東町内会長 2) 洋野町 ○村上 昇司 さん 洋野町地域包括支援センター ○大光 テイ子さん 洋野町地域包括支援センター（地域支援推進員） （質疑応答）	1 22
14:10～15:10	2. 川西市（兵庫県）からの報告 ○森上 淑美 さん 川西市地域包括支援センター ○上中 洋司 さん 明峰地域包括支援センター （質疑応答）	31
15:10～15:20	休 憩	
15:20～16:20	3. 大牟田市（福岡県）からの報告 ○梅本 政隆 さん 大牟田市保健福祉部長寿社会推進課 ○猿渡 進平 さん 医療法人静光園白川病院 医療連携室 （質疑応答）	57
16:20～16:30	4. まとめ 認知症の本人と家族を地域で支える体制を 築いていくために 認知症介護研究・研修東京センター研究部副長 永田 久美子	75

1 認知症介護研究・研修東京センター 本間センター長挨拶

- ・ 先週は大阪で開催し、今回の盛岡が2番目の開催となる。今回は県内2か所の事例及び兵庫県川西市、福岡県大牟田市の事例を紹介してもらおう。発表の中では、様々な課題が示されるので、これを共有していただきたい。
- ・ 東京センターでは、認知症地域支援推進員の研修も実施しており、全国で約560人が設置されている。研修前に行うアンケートによると、医療との連携に関し「受診してもらえないこと」で困っているとの答えが多かった。医療にどうつなげるかが課題であり、普及啓発の重要さは変わらない。
- ・ 地域ケア会議は全国約1,700市町村のうち、1回以上開催したところが約66%あるが、3分の1は未開催であり、開催したものの多くは事例検討である。開催のうち、医師の参加は33%にとどまっており、関係者全員に情報を共有していかなければならない。
- ・ 認知症ケアについては様々な活動がなされているが、面的な展開はまだである。平成27年度からの第6期介護保険計画は、早いところでは来秋から計画策定作業が始まると思うが、セミナーで出された課題等についてもフィードバックをお願いしたい。

2 事例発表

(1) 奥州市

(行政)

- ・ 奥州市は、県内で2番目に要介護認定者のうちの認知症(ランクⅡa以上)の割合が高く(66%)、認知症に関する相談も増えている。認知症で困っている市民が多いことと、認知症関係の事業への住民の関心が高いことから、市町村認知症施策総合推進事業の導入を決めた。
- ・ 関係機関(24団体)で構成する「認知症になっても安心まちづくり連絡会」を開催し、①徘徊対応部会、②金銭管理・権利擁護部会、③普及啓発・相談対応部会の3つの部会を設置。
- ・ タクシー協会からの「目印があれば2~3分で見つけられる」との提案を受け、徘徊高齢者を登録しステッカーを配付。
- ・ 「みんなで支える認知症事例検討会」は家族も参加し、参加者の満足度が高い。
- ・ 市民ボランティア組織「認知症支援ぬくもり隊養成講座」は反応が大きく、広報に募集記事を出したら18名の申込みがあった。現在は40名以上が参加。
- ・ 現在、認知症の人と家族に対する実態調査(聴取り)を実施中。
- ・ 当事業を実施する際、嘱託医とする予定だった認知症サポート医が県外に転出するアクシデントがあり、新たにサポート医を養成する必要が生じたことで、医師会との情報交換の機会が増えた。これが連携強化のきっかけとなり、医師会の研修に招かれたりもした。

(認知症と向き合う会：桜屋敷東町内会)

- ・ 町内で花がなくなる事件が多発し、問題になったことが取組のきっかけとなった。花を持っていったのは80代の認知症の男性で、昔は警官で防犯協会の活動にも携わっていた。花の写真を撮ってきた人だったので、町内で写真展を開催し、「困った人」ではなく「地域に貢献した人」として認めることにした(その人は開催前に体調を崩し、亡くなった)。
- ・ 認知症の人が増えることから、町内会で支援するため、平成20年度以降毎年、認知症に関する講話、介護体験の報告、グループワーク、体操等を行っている。また、認知症の人と一緒にハンドベルを行っており、参加者の表情が豊かになったり、敬老会に呼ばれるなどの効果が出ている。

(平成24年度認知症地域支援体制地域普及セミナー)

奥州市における認知症地域支援の取り組み ～認知症になっても安心長寿のまちおうしゅうをめざして～



岩手県奥州市
水沢地域包括支援センター
及川 明美

1

岩手県奥州市



- 奥州市は平成18年2月20日、水沢市・江刺市・前沢町・胆沢町・衣川村の2市2町1村が合併し、誕生した。
- 人口 124,746人
- 世帯数 41,308世帯
- 面積 993.35 km²
(東西に約57km、南北に約37km)
- 1人暮らし高齢者世帯 3,739世帯
- 高齢者のみ世帯 7,485世帯

地域の個性がひかり輝く
自治と協働のまち 奥州市
「健康で安心して暮らせるまちづくり」
をめざしています

(特産品)
南部鉄器 前沢牛 江刺りんご
胆沢ピーマン はとむぎ茶等
※国際リニアコライダー (ILC) 東北誘致
をめざしています

2

奥州市



3

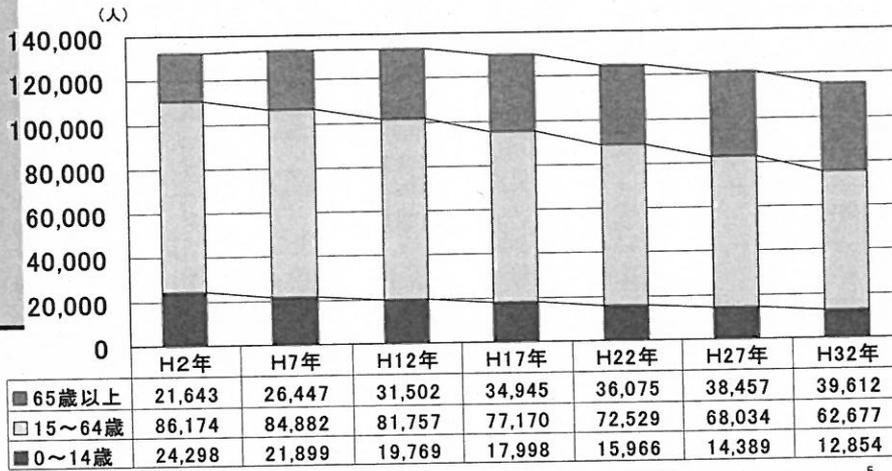
奥州市の概況

- 人口 124,605人 (平成24年3月末現在)
- 高齢者人口 36,116人 (高齢化率28.9%)
- 介護保険認定者 6,123人 (認定率16.9%)
- 認知症日常生活自立度Ⅱ以上 4,044人
- 日常生活圏域 5圏域
- 地域包括支援センター 直営5箇所
- 介護保険料 月4,333円 (第5期平均額)
- 年間介護給付費 約84億8,647万円



4

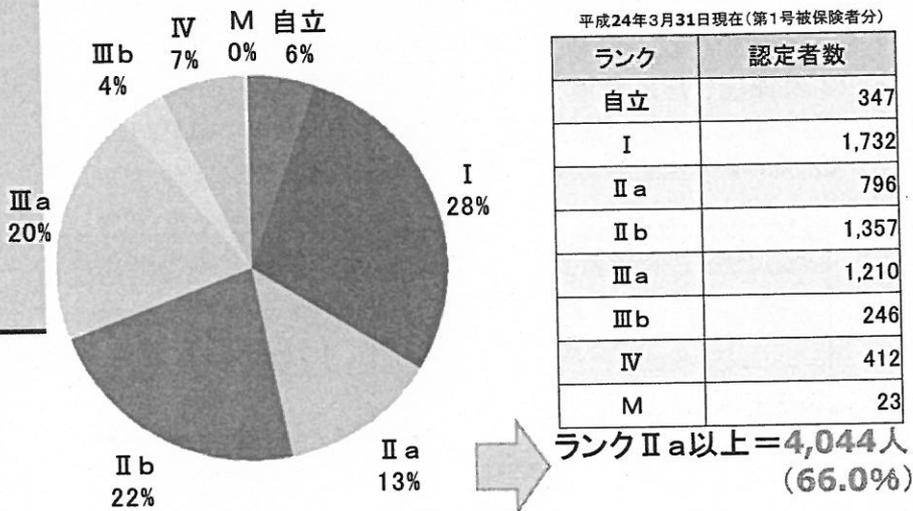
奥州市の年齢別人口の推移



H2年～H22年は国勢調査、H27年以降は国立社会保障・人口問題研究所の推計値

5

奥州市 介護認定者の認知症の割合



介護認定者の認知症の割合 (全国・岩手県・他市との比較)

平成24年3月31日現在(第1号被保険者分)

	介護認定者 数	Ⅱa以上 の人数	Ⅱa以上 の割合		介護認定者 数	Ⅱa以上 の人数	Ⅱa以上 の割合
全国	514.7万人	305万人	59.2%	北上市	3,679	2,270	61.0%
岩手県	64,471	37,863	58.7%	久慈市	1,796	1,035	57.6%
盛岡市	11,680	6,737	57.6%	遠野市	1,696	1,032	60.8%
宮古市	3,308	2,247	67.9%	一関市	7,387	3,690	49.9%
大船渡市	1,996	945	47.3%	陸前 高田市	1,201	695	57.8%
奥州市	6,123	4,044	66.0%	釜石市	2,523	1,259	49.9%
花巻市	5,337	2,938	55.0%	二戸市	1,612	1,013	62.8%

全国は厚生労働省報道公表資料(H24.8.24)の推計値より算出

管内警察署の状況から

■ 徘徊の状況(保護件数)

※保護した高齢者が認知症であるという明確な証明はない

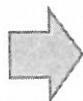
- 一般住民からの通報が主
- 寒い時期は通報が多い(着衣等で判断し易い?)

警察署	H23.1.1~12.31	H24.1.1~9.30
水沢	61件 (うち高齢者44件)	33件 (うち高齢者30件)
江刺	45件 (うち高齢者12件)	26件 (うち高齢者6件)

8

地域包括支援センターでの相談傾向 (H24.4.1～9.30奥州市包括の相談統計より)

- 総相談件数1,903件中、「認知症がある、もしくは疑いのある高齢者の相談」は523件＝27.4%
- 相談のきっかけは介護保険に関する相談が＝45.5%
- 次いで認知症に関することが＝25.1%
- 相談者の内訳で多いのは①同居親族、②親族
③関係機関(医療機関、市の他部局、警察署等)



「認知症がきっかけで介護が必要な状態に」
「症状への対応に困っての相談も多い」
「周囲が異変に気付いて相談(本人自覚なし)」

9

地域包括支援センターでの相談傾向 (H24.4.1～9.30奥州市5包括の相談統計より)

～ 相談内容の一例 ～

- (本人)物を盗られたり、悪戯される
- (本人)保険や年金の葉書が届いたが意味が分からない
- (家族)物忘れが出始めたのでデイサービスを利用させたい
- (家族)薬や金銭管理できず、行き先を忘れるが運転しようとする
- (関係機関)振り込め詐欺にあった高齢者を発見した
- (関係機関)通帳や保険証を失くしたと何度も問い合わせがある
- (地域住民)一人暮らしを地域で見守っていくのは限界だ
- (地域住民)町内会費を払わず、ゴミ出しもきちんとできていない

10

これまでの認知症高齢者対策の取り組み

- 総合相談
- 要支援1・2及び困難ケース支援
- 認知症サポーター養成講座開催・キャラバンメイト支援
- 高齢者虐待防止への取り組み
- 関連会議・講座等での啓発活動
- 認知症の人と家族の会支援
- 介護予防教室
- 二段階方式を活用した、脳元気グループ育成支援（脳元気グループ交流会・脳いきいき相談）
- 「呆けない老後をめざす会」等の地域づくり

11

奥州市の認知症高齢者の現状と課題(まとめ)



一人暮らし高齢者世帯は(8.5%)高齢者のみの世帯は(17.1%)となった。地域の見守りや支援の必要な人が増えている一方で地域の支え合いが弱まり、孤立するリスクが高くなっている。

認知症高齢者の増加に伴い、要介護認定者のうち65歳以上の66%、64歳以下の39%は認知症である。

虐待事案の44.9%が認知症である。

合併前の旧市町村の取り組みが、検証されていない

【対応】

- ① 医療・介護・地域支援サービス連携の再構築
- ② 認知症の人とその家族の支援の充実

※専門的な支援と住民活動とが繋がらないと何も解決しない

12

気づきとあせり

認知症に関する切実な相談が多くなっている
介護保険未申請の徘徊高齢者が保護されている
認知症サポーター養成講座やフォーラム、家族教室等、
認知症関連事業に対する住民の反応が大きい
若年性認知症者のほとんどが匿名の相談



「認知症で困っている市民が多い」という確信
合併前の各自治体での取り組みが検証されていない
一緒に考え、市全体の事業としてしきりなおしを
めざそう！



13

第5期高齢者福祉計画・介護保険事業計画 (平成24年～26年)

重点的に取り組む7つの高齢保健施策のひとつに
「認知症予防と認知症高齢者への支援」

＜主な施策の方向性＞

- 認知症に対する正しい知識と普及啓発
- 認知症予防事業の充実
- 相談体制の充実
- 家族支援体制の強化
- 地域支え合い活動の支援



14

平成24年度市町村認知症施策総合推進事業の取り組み

住み慣れたまちで共に生きるために
～認知症になっても安心長寿のまちおうしゅう～

<目 的>

認知症になっても本人の意思が尊重され、みんなの和で支え合いながら、住み慣れた地域で安心して暮らせる地域づくりをめざす。

15

(1) 医療・介護・地域支援サービスの連携を図る事業

① 「認知症になっても安心まちづくり連絡会」
及び課題解決に向けた各部会の開催

《認知症になっても安心まちづくり連絡会》

認知症の方に関わる関係者で構成 24団体

(医師会・歯科医師会・薬剤師会
介護施設関係者・家族の会
ケアマネジャー代表・
社会福祉協議会・金融機関
理容師組合・タクシー協会
弁護士・消防・警察・岩手県
市役所関係課等)



16

①「認知症になっても安心まちづくり連絡会」
及び課題解決に向けた各部会の開催

○徘徊対応部会

- ・徘徊高齢者登録台帳
- ・登録者に目印となるステッカーの配布
- ・周知のチラシ作成



①「認知症になっても安心まちづくり連絡会」
及び課題解決に向けた各部会の開催

○金銭管理・権利
擁護部会

- ・金融機関向け相談窓口資料
- ・金融機関待合室への情報配置
- ・認知症サポーター養成講座（「認知症の人の権利を守る」）



①「認知症になっても安心まちづくり連絡会」 及び課題解決に向けた各部会の開催

○普及啓発・相談 対応部会

普及啓発リーフレット作成
(全戸配付)

<部会での情報共有>

- ・今ある資源をどう生かすか
- ・安心まちづくりイメージの共有が必要
- ・この地域で必要なもの、不足しているもの見極め



19

②みんなで支える認知症事例検討会

- 地域包括ケア会議メンバーに認知症サポート医と事例をとりまく関係者が参加
- 地域課題の共有をはかり解決に向けた取り組みによる、地域のケアマネジメント力の向上及び関係者のネットワークの構築をめざす。

※参加者の満足度高い



20

(2) 認知症の人や家族を支援する事業

① 認知症の人を支える介護者支援事業



「認知症支援めくもい隊養成講座」

認知症を学び、認知症になっても安心地域づくりを
一緒に考え行動する市民ボランティア育成

市民の反応の大きさに驚き！ アクションミーティングで行動開始！

21

(2) 認知症の人や家族を支援する事業

① 認知症の人を支える介護者支援事業

「家族交流「ほっとスペース」」



22

認知症高齢者を支える家族介護者の声

—H24年ほっとスペースから—

- 自分たち「も」でなく、自分たち「が」元気でないと
- 介護の辛さは「孤独」、近所の人のががけが有難かった
- 介護に関するストレス等を話し、それにアドバイスしてくれる人がほしい
- 初めの頃、どこに相談に行けばよいか、どこの病院にいくべきか全くわからなかった
- 介護教室で「役者になれ」と教えてもらい助かった
- プライドを保持しながら子どものように世話をしなければならぬ矛盾に疲れる
- 思い切り語りあえる場がほしい



②キャラバン・メイト活動支援と

認知症サポーター養成事業

- ア フォローアップ研修会の開催
- イ キャラバン・メイト自主活動組織育成支援
H24.5月設立
「奥州市キャラバン・メイト連絡会スマイル²」
キャラバン・メイトオレンジ通信発行
- ウ 認知症サポーター養成講座



24

認知症サポーター養成講座の取り組み



＜奥州市の実績＞

H24年12月31日現在

認知症サポーター養成講座開催回数 69回

キャラバンメイト数 42人

認知症サポーター数
6,498人



25



③ 認知症の人と家族支援のための研修会

ア 「認知症にやさしい地域づくりフォーラム」
～住み慣れたまちで共に生きるために～

イ 「認知症にやさしいケアのあり方研修会」
認知症の相談及び介護に従事する者の資質と
ケアマネジメント力の向上を目的として開催。



27

④ 認知症の人と家族の実態調査の実施

認知症の人とその家族の実態を把握し、奥州市認知症施策の基礎資料とする。

認知症地域支援推進員をはじめ、地域包括支援センターや在宅介護支援センター職員が、相談・訪問等を通じ、聞き取りによる実態調査を実施するほか、市内指定居宅介護支援事業所のケアマネジャーに調査を依頼する。

28

今から！ここから！はじめの一步！

市町村認知症施策総合推進事業をきっかけとして、奥州市が目指すもの
～認知症を切り口とした地域包括ケア体制の構築とまちづくり～

- 「困っている」からはじめられる
- 認知症の人が暮らしやすいまちは誰もが暮らしやすいまち
- 住み慣れた地域で自分らしく過ごし、希望するかたちで人生を終えられるようにしたい
- 市民が認知症の正しい知識をもち、だれもが社会的に排除されず、社会参加できるまちをめざしたい



29

認知症対策事業に取り組んで

- 1) 認知症サポート医をはじめ、医師会との情報交流が増え医療と介護の連携強化につながった
- 2) 医師のみならず、医療機関職員との交流により連携がスムーズになった
- 3) 関係者と顔の見える関係を築くことができた
- 4) 住民の認知症に対する関心の高さと、困っている実態を再認識できた
- 5) 市民や多職種協働で動くすばらしさを知った

30

「認知症とむきあう会」 ～桜屋敷東町内会の活動から～

奥州市水沢区桜屋敷東町内会
会長 菊地 正宏

31

花どろぼうのおじさんが 教えてくれた地域づくり

新興住宅地で、通勤族が多く地域のなじみが薄い人が多い地域。
平成20年、民生委員が困った顔で相談にきた。「誰かが、町内の白い花を
とっている花どろぼうがいる。」とのこと。

のちに、防犯協会等で活躍していた、元警察官の方だとわかった。
息子さんが遠くにおり、妻と二人暮らしであったので、散歩の時は妻が付
き添い花を折らないようお願いした。

ある日曜日、公園で散歩中のご夫婦を見かけた。手にはしっかりと白い花
が握られていた。若い頃から花が好きで写真を撮っていたことを知り、町内
での写真展開催を提案した。「困った人」ではなく、「写真展で町内会に貢献し
た人」としてみとめてもらう機会になるのではないかと思った。

妻は、涙を流し写真展を喜んでくれたが、写真展開催を目前に体調をくずし
亡くなられた。葬儀の日、写真展会場をその方を乗せた車が通り、町内会の
皆に見送られながら旅立っていった。

このことをきっかけに、『認知症に向き合う会』がスタートした。

32

認知症を地域挙げ支援 ～町内会が認知症に向き合う会～

<目的>

認知症の住民が1人・2人と増えた時に、隣近所で支援できないか。住民が自分のこととして考えることで、安心して暮らせるまちに少しでも近づきたい。

OH20から毎年実施している

- (内容) 講話「認知症の基礎」等
講師(地域包括支援センター職員、施設長等)
介護者体験談報告
グループワーク
市民歌リズム体操

33

人にやさしい地域づくりができた理由

- 1 本人と家族の生き方に共感
- 2 「童謡を家族と楽しむ会」を通しての地域交流の場があった
- 3 経験豊かで力量のある町内会役員メンバーがいた

《現在の状況》

- 認知症の勉強会からやすらぎの会へ
- 毎週火曜日 10時から
- だれでも集えて語りあえる場(居場所)
- 「向こう三軒両隣」の精神で声かけあいの申し合わせ

34

ご清聴ありがとうございました



太鼓を打ち鳴らし、歌い踊る江刺鹿(しし)踊り
歴史公園 えさし藤原の櫓

平成 24 年度奥州市認知症になっても安心まちづくり連絡会
 < 金銭管理・権利擁護 >

会 議 名	第 1 回金銭管理・権利擁護部会
日時	平成 24 年 12 月 5 日（水）午後 3 時 00 分～午後 5 時 00 分
場所	奥州市民活動支援センター 第 1 会議室
参加者	部会員 7 名
部会会長	(社福)奥州市社会福祉協議会 長谷川 伸 氏
部会副会長	県南広域振興局 熱海 芳廣 氏
説明事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 奥州市の概況 ・ 奥州市地区別高齢者人口（年齢階層別） ・ 奥州市の年齢別人口の推移 ・ 高齢化率の推移（全国・岩手県との比較） ・ 奥州市介護保険（地区別要介護等認定者数調べ） ・ 奥州市要介護認定者数の推移 ・ 奥州市介護認定者の認知症の割合 ・ 地域包括支援センターでの相談傾向 ・ 高齢者虐待相談から見る認知症 ・ 地域包括支援センターで対応した事例の紹介
協議事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 週 2 回来る高齢者が、通帳紛失もあるうえ、苦情めいた内容が頻回で家族に相談したいが、知るてだてが無い。 ・ 本当に消費者被害に遭っているのか、物取られ妄想などの認知症状なのか悩むところがある ・ 本人の意思・尊厳もあるので、包括を紹介したくても本人が納得しないこともある ・ 連携が大切。自分が持っている情報を共有できれば。全体の連携が取れたら良いと考える ・ 制度や事業をどんな人達へ伝えておけば役にたつのか ・ 金融機関で「おかしいな」と思った情報が相談機関に提供され、弁護士が対応できれば ・ 各機関の役割をそれぞれが認識していれば実務のうえで役に立つ ・ 個人情報保護の観点から見た場合、住所、氏名、電話番号等の情報を関係機関に伝えても良いものなのだろうか ・ 地域包括支援センターから他機関へ繋ぐ場合は、口頭で本人から了解を得て、対象者の情報と相談概要を情報提供している。本人同意を得ながら、金融機関 ⇄ 相談期間 ⇄ 弁護士等の専門家という流れを作れないか
部会での取り組みについて	<p>部会の意見を元に地域包括支援センターで今年度取り組めるものを検討し、次回部会前に部会員に提案する。</p> <p>(取り組み例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 金融機関利用者に向けたチラシ ・ 関係機関の役割と具体的対応例を掲載した事例集 ・ 相談者を繋ぐネットワークの整備（流れを図式化?） ・ 関係機関同士で相談者を繋ぐ際のツール作り
今後の部会開催について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次回開催日：平成 25 年 1 月 23 日（水） 開催時間：午後 3：00～午後 5：00 ・ 全 3 回開催する。開催月は平成 25 年 1 月、2 月

会 議 名	第2回金銭管理・権利擁護部会
日時	平成25年1月23日(水) 午後3時00分～午後4時30分
場所	奥州市民活動支援センター 第1会議室
参加者	部会員7名
説明事項	<p>前回の部会での意見を元に事務局案を作成し、説明を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 金融機関を対象とした取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーター養成講座の受講案内を市より発送 ・認知症高齢者に関する相談窓口情報の提供 2) 地域住民を対象とした取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・市広報、地元紙での情報提供(定期・特集記事掲載) ・金融機関待合室への情報の配置(普及啓発・相談対応部会で作成中のチラシを配布) 3) 金融機関向け相談窓口資料の作成 <ul style="list-style-type: none"> ・相談窓口一覧表作成、相談窓口一覧表の裏面にはフローチャートを入れる。 4) 相談窓口に繋ぐ際に必要なツールづくり 5) 金融機関から情報提供があった際の対応強化 <ul style="list-style-type: none"> ・警察と包括支援センターの連携促進 ・関係機関同士での情報共有のためのルールづくり 6) 金融機関と相談窓口担当者の定期連絡会の開催
意見交換	<ul style="list-style-type: none"> ・銀行からの情報提供は個人情報の壁があり難しい。 ・定期連絡会開催での情報交換を行っていくことがよいのではないか。 ・金融機関からそれぞれの相談窓口にというのはかなり大変なので、包括支援センターがクッションとして入っていただくとよいのでは。 ・関係機関でやりとりする場合は最低限の同意事項を決める必要あるのではないか。 ・初期の段階で包括支援センターへつなぐことで詐欺被害の防止につながればよい。
部会での取り組みについて	<ul style="list-style-type: none"> ・前回出された課題の整理があるとわかりやすくなるのではないかとの意見あり、課題を整理し今年度取り組むことと、平成25年度以降に取り組む内容をまとめることとなる。 ・金融機関向け相談窓口資料を修正する。
今後の部会開催について	<ul style="list-style-type: none"> ・次回開催日・・・H25年2月26日(火) 開催時間：午後3:00～午後5:00(取り組み案が出揃った為、具体的に実写化した内容を、次回開催までに事務局より部会員への事前知らせを要する。)

会議名	第3回金銭管理・権利擁護部会
日時	平成25年2月26日(火)午後3時00分～午後5時00分
場所	奥州市民活動支援センター 第2会議室
参加者	部会員5名
説明事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題と取り組み内容、連絡会全体で取り組みについて検討した方が良いことを表にまとめ、提示。 ・ 金融機関向け相談窓口資料 (職員用) 高齢者の金銭問題に係る相談窓口一覧 (来客用) 奥州市地域包括支援センター紹介チラシ
意見交換	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人情報、整理しておく事が必要。ルールを決めてみてはどうか。 ・ 相談窓口、どう繋ぐかが問題。例えば、車の高齢者マークのように通帳に高齢者マークを付けるのはどうか。このサポート通帳を待っていると、本人を守りますよとの意思表示につながる。 ・ 横の連携を図ることは必要と感じた。新しく立ち上げるもいいが、今ある会議に入るのもいいと考える。
部会での取り組みのまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成24年度に取り組んだ内容、平成25年度以降に取り組む内容については、別添資料の通り。

平成 24 年度奥州市認知症になっても安心まちづくり連絡会
 <徘徊対応部会>

会 議 名	第 1 回徘徊対応部会
日時	平成 24 年 11 月 27 日 (火) 午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分
場所	奥州市民活動支援センター 第 2 会議室
参加者	部会員 6 名
部会会長	岩手県水沢警察署 古屋敷 孝悦 氏
部会副会長	岩手県タクシー協会胆江支部 松本 健 氏
説明事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 奥州市の概況 ・ 奥州市地区別高齢者人口 (年齢階層別) ・ 奥州市の年齢別人口の推移 ・ 高齢化率の推移 (全国・岩手県との比較) ・ 奥州市介護保険 (地区別要介護等認定者数調べ) ・ 奥州市要介護認定者数の推移 ・ 奥州市介護認定者の認知症の割合 ・ 管内警察署での状況から ・ 行方不明高齢者発生時の対応状況(水沢警察署) ・ 行方不明高齢者発生時の対応状況(江刺警察署)
協議事項	<p><課題と感じていること・やってみたいこと> (各委員より現状及び意見を伺う)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ G P Sは本人が持って歩くか不確か。実用性にかける ・ 詳細な情報があれば良いが、服の色や体型等の情報で本人を見分けるのが難しい ・ 外から見える場所に大きく目立つ目印が欲しいが、人によっては嫌がって外す ・ (名札などを服に付けて) あまり表から見えずぎても、本人の人権侵害では? ・ 靴はあまり履き替えないので、本人の情報を靴に貼ってはどうか ・ 家族が徘徊や認知症を隠す傾向を感じる。家族があまりにも無関心な世帯も多い ・ 警察で顔写真を撮って保管している事案もある。警察、包括で情報共有できれば ・ 徘徊のおそれがある方に事前登録していただいて「安心台帳」を作りたい ・ 台帳は原本を市役所本庁で保管、写しを市役所総合支所、警察で保管しはどうか ・ 靴のほか、必ず本人が持って歩く物に目印を付けられれば良いのでは ・ 交通事故防止の観点からも反射材のステッカーは有効なのではないか ・ リーフレットを作成して家族、地域の理解を促したい ・ 警察・消防が必要としている情報を家族が正確に答えられるようにして欲しい
部会での取り組みについて	<ol style="list-style-type: none"> ① 登録票兼台帳等の作成 ② 靴や持ち物等に貼るステッカーを作成する。 奥州市自治区の別と個別番号を記載し、発見保護時に登録票兼台帳で対象者の情報を確認できるようにする (例: 「奥水 0 0 1」 = 奥州市水沢区の登録票 0 0 1 番の方) ③ 「認知症にやさしい地域づくりネットワーク」のリーフレットまたはチラシ作成
今後の部会開催について	<p>H25 年 1 月中に、取り組み内容を実写化し、事務局より部会員へ F A X し各自検討を行う。</p> <p>1/31 までに事務局が意見を集約し、2 月初旬に第 2 回部会を開催する。</p>

会 議 名	第2回徘徊対応部会
日時	平成25年2月13日(水)午後2時00分～午後4時00分
場所	奥州市水沢地域包括支援センター
参加者	部会員7名
協議事項	<p>(1) 奥州市高齢者あんしん台帳(仮称)について</p> <ol style="list-style-type: none"> ① あんしん台帳の名称は「奥州市はいかいSOS台帳」に決定。 ② 特徴欄には、四肢麻痺欄を追加する。 ③ 掲載写真は、3ヶ月以内のもの。 ④ 個人情報の管理・使用方法の欄には、「生命に危険が感じられた場合」と追加記載する。 ⑤ 医療等の情報の欄を増やす、連絡先を「保護者」へ記載を改める。 <p>(2) あんしんステッカー(仮称)について</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ステッカーは、「奥州市+連番」という市で統一した記載の物を購入する。 ② 奥州市はいかいSOS台帳の登録者に10足分を交付する。 <p>(3) 認知症になっても安心なまちチラシについて</p> <ol style="list-style-type: none"> ① より分かりやすいよう、記載事項の順番を替える。 ② 曖昧な表現はせず、具体的な表現に変更する。 ③ SOS台帳へ登録した方にはステッカーに同封して郵送する。 ④ 連絡会構成団体の事業所や店舗、窓口にチラシの配置をお願いしたい。
取り組みに対する意見	<p>(1) 奥州市はいかいSOS台帳について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「この症状だったらこの病院」と分かる様になっていけば活用しやすい。 ・ 情報を警察と包括だけでなく、救急時に消防でも活用できないか。 ・ 保護者の連絡先の再確認を誰がどのように行うか、今後の課題と思われる。 ・ 久しぶりに字を書く方もいると思われるので、例台紙を作成してはどうか。 ・ 台帳の登録者情報は代筆可とし、届出者の自署と印鑑を貰う形で良いのでは。 ・ 保護者になり得る人の連絡先を記入してもらわなければ意味がない。受付時の説明が重要だと思われる。 <p>(2) あんしんステッカー(仮称)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 見て分かるかどうかということが大切。 ・ 靴のステッカーで検索し、保護に繋げて行くので有効だ。 ・ ステッカー代の一部を、自費でもとめても良いのではないか。 ・ ステッカー購入の予算を継続的に要求し、25年度以降も購入するべき。 <p>(3) 認知症になっても安心なまちチラシについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全戸配布や町内会の班回覧を行うなど、出来るだけ多くの方の目に触れるような配慮が必要だ。 ・ チラシの配布により制度が多くの方の目に触れる。徘徊ではなく普通に歩いているだけで、市民が靴や私物のステッカーを見つけて通報してくる場合があるかもしれない。

高齢者の金銭問題に係る相談窓口一覧(奥州市)

1. 総合相談窓口 (相談内容が明らかでない場合はこちら)

相談窓口	窓口の概要
奥州市地域包括支援センター ☎0197-24-2111 (内線 ,)	高齢者に関する総合相談・高齢者虐待の防止・対応 保健師、社会福祉士、主任介護支援専門員（主任ケアマネジャー）の3職種が配置されており、保健・福祉・介護の専門職がチームで高齢者の支援を行っています。日常生活の心配ごとをはじめ、介護や健康の相談、消費者被害や財産管理の問題、高齢者虐待といった、高齢者の方の様々な相談を受け付け、関係機関と連携して必要な支援を提供したり、専門機関・制度・サービスにつなげます。

2. 各種専門相談・通報窓口

相談窓口	窓口の概要
(水沢・前沢・胆沢・衣川区) 水沢警察署 生活安全課 ☎0197-25-0110 (代) (江刺区) 江刺警察署 生活安全課 ☎0197-31-0110 (代)	振り込め詐欺等の金融事件に関する相談 岩手県警察では、振り込め詐欺に関する情報の提供を県民の皆様をお願いしています。犯人につながる情報として、具体的な振り込め詐欺情報をお知らせください。 *『振り込め詐欺』の被害情報や、不審者からたった今電話があった場合などには、110番通報するようにお願いします。
奥州市市民課 総合相談室 ☎0197-24-2111 (内線 ,)	消費生活相談・債務相談 悪質商法や借金などのトラブルについて、消費生活相談員が相談に応じます。 消費者救済資金融資相談 (要予約) 多重債務など借金の整理について、信用生活協同組合の専門職員が相談に応じます。 多重債務者弁護士無料相談 (要予約) 多重債務で困窮している方等を対象に弁護士が相談に応じます。
奥州市社会福祉協議会 ☎0197-25-7171	日常生活自立支援事業に関する相談 社会福祉協議会では、日常生活自立支援事業により、みなさまが安心して地域でくらするように、福祉サービスの利用手続き、公共料金などの支払い手続き、大切な書類の保管などをお手伝いします。サービスをご利用いただく際には、ご本人と一緒により支援計画を作成し、サービスを提供します。

相談対応の流れ

金融機関

お客様の様子から異変を感じたとき
(例えば…)

- ①振り込め詐欺被害が疑われる・遭っている
- ②消費者被害が疑われる・遭っている
- ③日常生活自立支援事業の利用者からの相談
- ④その他のケース
 - ・高齢者が「財産を勝手に引き出された」と訴える
 - ・高齢者の財産を親族が食べ物にしている
 - ・通帳紛失が頻繁、一人で預金を下ろせない
 - ・身なりが汚れており、着替えている様子がない
 - etc...

④

地域包括支援センター

高齢者に関する相談のワンストップ窓口
→ どこに相談してよいか分からないときは
まず地域包括支援センターへ

専門機関や
サービス・制度
につなぐ

地域包括支援
センター職員が
本人・家族と面談

連携促進

詐欺等の金融事件の危険性がある

警察署 → 金融事件への対応

消費者被害が疑われる・多重債務

総合相談室 → 消費者被害からの救済、債務整理相談

日常生活自立支援事業による支援が必要

社会福祉協議会 → 通帳・金銭管理支援

成年後見制度の利用が必要

家庭裁判所 → 制度利用による身上監護・財産管理

日常生活での介護・支援が必要 高齢者虐待が疑われる

健康福祉部長寿社会課（健康福祉課）

→ 介護サービスの手続き・高齢者虐待からの救済、保護

※状況に応じて複数の機関が連携して支援

平成 24 年度奥州市認知症になっても安心まちづくり連絡会
 <普及啓発・相談対応部会>

会 議 名	第 1 回普及啓発・相談対応部会
日時	平成 24 年 12 月 4 日（火）午後 2 時 00 分～午後 4 時 00 分
場所	奥州市民活動支援センター 第 2 会議室
参加者	部会員 11 名中出席者 8 名
部会会長	奥州キャラバン・メイト スマイル ² 連絡会 佐藤 勇杉氏
部会副会長	奥州薬剤師会 中目 祐幸氏
説明事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 奥州市の概況 ・ 奥州市地区別高齢者人口（年齢階層別） ・ 奥州市の年齢別人口の推移 ・ 高齢化率の推移（全国・岩手県との比較） ・ 奥州市介護保険（地区別要介護等認定者数調べ） ・ 奥州市要介護認定者数の推移 ・ 認知症者の日常生活自立度 ・ 岩手県における認知症高齢者に日常生活自立度の推移 ・ 奥州市介護認定者の認知症の割合 ・ 地域包括支援センターでの相談傾向①②③ ・ 奥州市の認知症高齢者への取り組み ・ 認知症高齢者を支える家族介護者の声 ・ 現行の主な認知症相談窓口 ・ 認知症における早期発見・早期介入
協議事項	<p><課題と感じていること・やってみたいこと>（各委員より現状及び意見を伺う）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家族を支援する場が必要。 ・ 支援が必要な方々をどう支えるかが課題。 ・ 認知症の理解を住民に伝えている。 ・ 段階、立ち位置にあわせた取り組みが必要。 ・ 相談先の周知、早期対応が重要。 ・ 認知症への関心が薄い。パンフレット等での普及啓発が大切。広く理解を促し、つなげてもらう。 ・ 他の取り組みとの連携が必要。（横のつながり、幅広く見守る事が必要） ・ 地域の支えあい、地域によって差がある。 ・ 既に取り組んでいること（介護教室など）の広い周知。
部会での取り組みについて	<ul style="list-style-type: none"> ・ 普及啓発及び相談先、認知症状についてのチラシを作成 印刷状態：A4 又は A3 用紙、裏表印刷 配布：全戸配布 配布時期：2 月～3 月 内容：受付時間を記載。住所は無くても良い。字は大きく。無駄な情報をはぶく。 奥州市の認知症グラフを掲載し、関心の無い方へ興味を持たせる。
今後の部会開催について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 包括で、チラシ原案を作成。内容を部会員に配布。部会員の意見を反映し、再度作成したものを、H25 年 1 月下旬に部会で協議し、決定した内容を安心まちづくり連絡会へ提出

会 議 名	第2回普及啓発・相談対応部会
日時	平成25年2月22日（金）午後3時00分～午後5時00分
場所	奥州市民活動支援センター 第2会議室
参加者	部会員11名中出席者8名
協議事項	<p><リーフレット再案について>資料：①</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 今まである資源を、どう活かすか。 ◆ 安心まちづくりのイメージの共有が必要。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 奥州市では、何が必要で何が不足しているかの見極め。 <p>～すぐにやること～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発症予防・元気づくり・早期発見・早期対応・悪化予防・家族支援 <p>～今後取り組むこと～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症普及啓発リーフレットの作成（全戸配布・関係機関への配布） ・ ゲートキーパー、ご近所福祉スタッフ、他の取組みとの連携に強化。 ・ アセスメントシート <p>◇ 始めの窓口としてリーフレットを作成。資料：②</p> <p>《認知症普及啓発及び相談先についてのリーフレット原案についての意見・要望》</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 頂いた意見に対する対応。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 標題（副題）の下に早期発見・対応が必要な理由を入れた。 ・ 保存版の面、左を右に入れ換えた。 ・ 前置きを短くした。円グラフを分かりやすく修正した。等々 修正を行う。 ・ 今年度は、医師会の情報に関しては相談場所のみ掲載 <ul style="list-style-type: none"> ～ まずは、現状・実態を知ることが必要。対応について～ ・ 広く浅く全市を知ること。・・・実態把握のアンケートを実施中。 ・ いくつかの行政区（街、農林部、山間部）で深く調査。 <ul style="list-style-type: none"> ・・・実態把握の結果を参考の検討。
意見交換	<p>～リーフレットの内容について～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 包括支援センターのサブセンターとは、仮名なので差し替え予定。 ・ 4月公報にて全戸、企業配布予定。（6000世帯配布）部会参加企業でも配布。 ・ 配色は薄く、ユニバーサルカラーで対応する。TELの表示は黒色。 ・ リーフレットの校正が完成した時は、会員へFAXにて知らせる。
平成25年度部会の方向性について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 来年度の部会では、手軽に使えるガイドブックを作ってはどうか。 ・ あんしんまちづくり連絡会では、支えられる側と支える側がいる。街全体の取組みが必要。 ・ 商工会が部会に入っていない。このような所へのアピールが必要。 ・ 繋ぎの部会が無いと支える人がいない状態になる。困っている人や独居への対応をどうするか。ただ相談するだけではなく、誰が何をしてくれるかが見えなければならぬ。 ・ 地域で認知症の映画を観たと聞いた。「折り梅」の映画を鑑賞することも、普及啓発に繋がる。
平成24年度部会への意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部会総会は、目的を一つに絞ると、具体的なものが出来上がる。 ・ 家族のほっとスペースについて、内容を聞きたい。 ・ 認知症のアンケートについて、内容を聞きたい。

認知症支援ぬくもり隊養成講座

『認知症になっても安心できる地域づくりに一緒に取り組んでみませんか』

- 会場：水沢区メイプル地下 「奥州市民活動支援センター会議室」（4回め Zホール）
- 対象：認知症に関心があり講座終了後ボランティアとして、認知症の人とその家族を支える地域づくりに取り組んでみたい方 30名
- 受講料：無料
- 申込締切：平成24年12月6日（木）



【講座の目的】

～認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、認知症を基礎から学び一緒に考える機会とします～

	日時	内容	講師
1	平成24年 12月7日（金） （13時30分～ 15時30分）	開講式 講話 奥州市の認知症対策の現状と課題 講話 認知症の人を理解し支えるということ 実技 リフレッシュ体操	グループホーム「今が一番館」（滝沢村） 施設長 横山 久子氏
2	平成25年 1月12日（土） （13時30分～ 15時30分）	講話 若年性認知症の夫と生きて 活動紹介 たんこう認知症の人を支える家族の会 実技 リフレッシュ体操 アクション・ミーティング	社団法人認知症の人と家族の会岩手県支部世話人 立花 美江氏 たんこう認知症の人を支える家族の会 事務局
3	2月6日（水） （13時30分～ 15時30分）	講話 認知症の病気の理解 講話 認知症の人の権利擁護を考える アクション・ミーティング	さくらクリニック（認知症サポート医） 院長 阿部 佐倉氏
4	3月2日（土） （13時30分～ 15時30分）	認知症にやさしい地域づくりフォーラム ～住み慣れたまちで、共に生きるために～	基調講演：認知症介護研究・研修仙台センター 矢吹 知之氏 他
5	3月18日（月） （13時30分～ 15時30分）	講話 認知症の人と家族を支える地域づくり アクション・ミーティングと受講者交流会 閉講式	社会福祉法人典人会 理事 ・総所長・情報科学博士 内出 幸美氏

《申し込み先・問い合わせ先》

奥州市水沢地域包括支援センター（奥州市健康福祉部長寿社会課）
電話：51-5465 FAX：51-5466

認知症介護者家族交流会 「ほっとスペース」のお知らせ

奥州市地域包括支援センターでは、認知症高齢者を支える介護者を対象に「ほっとスペース」を開催します。
認知症を学び、語り合い、リフレッシュする会に参加してみませんか？

■日程及び内容

	日時	場所	内容
第1回	平成24年12月14日(金) 13時30分～15時30分	水沢区メイプル地階 奥州市民活動センター 一会議室	①介認知症に関するミニ 講話 ②腰痛・膝痛予防のため のリフレッシュ体操 ③グループ交流
第2回	平成24年1月18日(金) 13時30分～15時30分		
第3回	平成24年2月15日(金) 13時30分～15時30分		
第4回	平成24年3月11日(月) 13時30分～15時30分		

■対象者

奥州市内の認知症者を介護している家族（介護保険認定を問いません）

■場所

水沢区メイプル地階「奥州市民活動センター会議室」

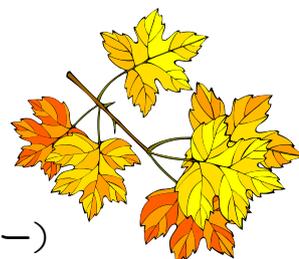
■参加費

無料（但し茶菓代は自己負担）

■問い合わせ及び申し込み先

奥州市健康福祉部長寿社会課（水沢地域包括支援センター）

電話：51-5465 FAX:51-5466



＝ 主催：奥州市 ＝

奥州市認知症になっても安心まちづくり連絡会設置要領

(設置)

第1 認知症の人が住みなれた地域で安心して暮らし続けられるように、認知症高齢者及び認知症対策の現状並びに課題について情報交換等を進めながら、地域における認知症者とその家族の支援体制の構築を図るため、奥州市認知症になっても安心まちづくり連絡会（以下「連絡会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2 連絡会の所掌事項は、次のとおりとする。

- (1) 認知症高齢者の現状と認知症対策の情報交換に関すること。
- (2) 認知症対策事業に関すること。
- (3) 認知症対策の普及啓発に関すること。
- (4) 前3号に掲げるもののほか、認知症対策の推進に関すること。

(組織)

第3 連絡会は、奥州市内の認知症高齢者に関係する団体・組織、行政機関等の職員等による委員をもって構成する。

(会長及び副会長)

第4 連絡会に会長及び副会長を置き、会長は、委員の互選により選任し、副会長は、委員の中から会長が指名する。

- 2 会長は、会務を総理し、会議の議長となる。
- 3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代理する。

(会議)

第5 連絡会の会議は、会長が招集する。

- 2 連絡会は、必要に応じて委員以外の者の出席を求めることができる。

(部会)

第6 連絡会に部会を置くことができる。

- 2 部会は、連絡会の所掌事項のうち委任された事項について、専門的に協議する。
- 3 部会は、会長が指名する委員をもって構成する。
- 4 部会に部会長及び副部会長を置き、委員の中で互選する。
- 5 部会の会議については、部会長が招集し必要に応じて委員以外の者の出席を求めることができる。

(庶務)

第7 連絡会の庶務は、奥州市健康福祉部長寿社会課（水沢地域包括支援センター）において処理する。

(補則)

第8 この要領に定めるもののほか、連絡会の運営に関し必要な事項は、会長が会議に諮って定める。

附 則

この要領は、平成24年8月6日から施行する。

認知症にやさしい地域づくりフォーラム

～住み慣れたまちで共に生きるために～

日時：平成25年3月2日（土）

午後1時30分～午後4時（受付開始 午後1時～）

場所：奥州市文化会館 乙ホール（中ホール）

参加
無料

申し込み不要

◆基調講演「地域で認知症の人と家族を支えるために」

講師：認知症介護研究・研修仙台センター
主任研修研究員

矢吹 知之 氏

プロフィール

東北福祉大学総合福祉学部専任講師
認知症介護研究・研修センター主任研修研究員
専門（社会学 認知症介護教育 家族支援
地域における介護・認知症予防）

◆パネルディスカッション

テーマ「認知症になっても安心して暮らせるまちづくりについて考える」

～地域で認知症の人と家族を支えるために～

《コーディネーター》 さくらクリニック院長（認知症サポート医） 阿部佐倉 氏

《パネリスト》 ☆前沢区白山1区民生児童委員 佐藤 一儀 氏

☆まえさわ苑指定居宅介護支援事業所長 佐々木 裕 氏

☆奥州市社会福祉協議会地域福祉課長 長谷川 伸 氏

☆水沢地域包括支援センター 及川 明美

《助言者》 認知症介護研究・研修仙台センター 主任研修研究員 矢吹 知之氏

◆奥州市キャラバンメイト・スマイル2による寸劇と全体合唱

【問い合わせ】

水沢地域包括支援センター 電話：51-5465

江刺地域包括支援センター 電話：35-2111（内線166・167）

前沢地域包括支援センター 電話：56-2111（内線271・272）

胆沢地域包括支援センター 電話：46-2977（内線204・205）

衣川地域包括支援センター 電話：52-3800（内線602・606）

どなたでも、お気軽にご参加下さい



《主催：奥州市》

